令和４年度　鹿児島県強度行動障害支援者養成研修(基礎講座)

R4.11.17-18

１　強度行動障害の理解

●支援とは：他人を支えたすけること、労力や金銭などの面でその**活動**や事業を**助ける**意を表す

●よりよい支援の流れをつくるためのポイント

計画(Plan)→支援(Do)→記録の分析(Check)→改善(Action)

強度行動障害とは：本人の健康を損ねる行動、周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態を意味する用語⇒その人の状態の事

・障害からくる苦手さが解消されないと、さらに激しい行動をとることがあります。

□適切な行動を教えられていない　□周囲が誤った対応を繰り返す

↓

行動が激しくなっていく＝『強度行動障害の状態』

強度行動障害の状態になっている人は「困った人」ではなく過「困っている人」

＝合理的配慮が必要な人

２　障害特性

・強度行動障害と自閉症の関連性が高い　知的障害、精神障害も関連する

療育手帳所持者の２％が強度行動障害

●特性とは：「強み」と「弱み」と言い換えられる

「強み」は支援に活かすもの　「弱み」は支援者が配慮するところ

●自閉症の特性

・社会性の特性　人や集団との関わりに難しさがある

状況の理解が難しい

・コミュニケーションの特性　理解が難しい　発信が難しい　やりとりが難しい

・想像力の特性　自分で予定を立てることが難しい　変化への対応が難しい

物の一部に対する強い興味

・感覚の特性　感覚が過敏または鈍麻(聴覚、視覚、触覚、臭覚、味覚、前庭覚)

３　支援

・目で見てわかる支援を！

・「いつ」「どこで」「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」→

時間の工夫(生活の見直し)　場所の工夫(活動との対応・刺激の整理)　方法の工夫(やり方・終り・次)　見え方の工夫(ヒント・着目)　やりとりの工夫(コミュニケーションツール)

☆自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことも当然出てくる。改めて支援を見直し、支援の補整や補強をしていく。この作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境を作っていく。

４　特性の把握

・個別の「障害特性」に対しての周囲の「環境要因」がミスマッチな場合に、その環境に対しての

不適応行動が生じることがある
・本人は困らせている人ではなく、困っている人という視点が重要です
行動をきちんと観察することで、本人の訴えたいことだけでなく、障害の特性を理解する事にもつながる
本人の行動は「困っている」サインかもしれません
■本人の行動をヒントに

■特性に気づき　　⇒支援も本人の活動も成功しやくなる

■適切な支援を組み立てていく

５　特性の分析
行動の背景を知るための「氷山モデル」
目に見える部分だけに対応しても問題は解決しない
水面下に大きな塊がある＝目に見えない部分
目に見えない部分を理解してアプローチすることで、表面に出ている問題が小さくなる

６　課題となっている行動
① 自分自身の生命あるいは健康に著しい危険を与える行動
② 周囲の人あるいは状況に著しい危険ないし混乱を与える行動
③ 自分自身の意味ある活動への参加や学習を著しく妨げる行動

☆行動の背景と捉え方
・課題となる行動には、障害特性に起因する何らかの理由がある
・「本人の特性」と「環境や状況」を整理
・導き出された支援アイデアは、本人の強みを使って具体化される

★最終目標★

強度行動障害という状態になっている人・なりやすい人が

地域の中で　安心して　幸せに　生活すること